青森県の市町村情報

西目屋村ミニデータ

●人　口　1,285人
（男601人、女684人）
●世帯数　550世帯
（令和4年8月1日現在）

●特産品
りんご、ばっけみそ、目屋豆腐、白神そば。

【概況】青森県の南西に位置し、三方を1000mクラスの山々に囲まれ、面積の9割を林野で占める山峡の村です。広大で原生的なブナ林からなる世界自然遺産白神山地を有し、津軽平野一帯の水がめの役割を果たしています。

西目屋村発★キラリ

各市町村で活躍するグループ・団体・企業等を紹介します。
今回はカヌーとラフティングの『A’GROVE』をご紹介。
代表の木立彰さん・恭子さん夫婦にお話を伺いました。

Uターン後移住で西目屋村へ カヌーとラフティングで村おこし

「A’GROVE」は、平成28年に木立彰さん、恭子さん夫婦が設立した、ラフティングの観光体験を提供する企業です。

彰さんは青森市出身で、学生時代にスキー部に所属し、高校時代、夏はカヌーでトレーニングを行っていたそう。高校3年生の時に国民体育大会のカヌー競技で優勝した経験を持ち、大学卒業後はカヌー選手として活躍されたといいます。選手時代に過ごした京都で恭子さんと出会い、結婚。第2子が生まれる直前に、青森へUターンしました。地元の青森市でスポーツ振興事業が立ち上がり、その専門員として声がかかったことがきっかけでした。

地元を離れることになった恭子さんですが、「ほとんど悩みませんでした」と話します。夫婦で家事育児も仕事も協力しながら前に進む日々。程なく、西目屋村でのカヌー普及推進事業にも関わることになり、住まいを青森市から西目屋村へ移しました。彰さんは村の臨時職員、恭子さんは地域おこし協力隊を経験し、村に貢献しつつ、地域の生活に馴染んでいきました。もともと地元にあった「白神カヌークラブ」の指導を再開し、選手の育成やカヌー普及に務めながら、自分たちが生活していくための仕事も模索。村でも渓谷や川を利用した観光振興により力を入れ、環境整備していきます。そして、カヌーに加え、ラフティングによる観光コンテンツの提供も始められるようになりました。

▲「A’GROVE」の木立彰さん、恭子さん夫婦。

カヌーの村の更なる発展を目指し 目下の目標は国スポ好成績

「A’GROVE」の目の前を流れるカヌーのコースは、全国的にも評判が高いコースなのだそうです。西目屋村は、その自慢のコースを最大限に活用して、昨年の東京五輪カヌースラローム競技イタリア代表のホストタウン事業、そして今年6月に3年ぶり開催のカヌー大会など数々の事業を行っています。また、クラブのカヌーの選手も育ってきており、木立さん夫婦は大会の引率など大忙しの日々。そんな中、今目指しているのは、4年後に青森県で開催される国民スポーツ大会で好成績を収めることだそうです。「カヌーの村としてより発展していくために、そこが新たなスタート地点になると考えています」と、彰さん。「景観を生かしたラフティング体験という観光資源も活用しながら、どんどんやっていきたいですね」。今後のさらなる活躍に期待が膨らみます。

私が男女共同参画を担当しています

西目屋村役場　住民課
主事
佐藤　貴大 さん

西目屋村では、平成23年に「西目屋村男女共同参画計画」を策定しました。それから10年が経過し、さらなる充実に向けて見直す時期を迎えたことから、令和3年3月、新たな計画を策定したところです。

人口減少や少子高齢化の問題は例外なく、当村でも抱えるものではありますが、そのような社会情勢の変化にも村としての独自性と持続性を発揮できるよう、村づくりを進めてきました。例えば、「西目屋村子育て定住エコタウン」の事業。村の遊休村有地に住宅団地を整備し、移住される方に土地を無償で譲渡。さらに「保育料の完全無料」「高校3年生に相当する年齢までの医療費無料」「妊産婦健診・各種予防接種無料」など、「子育て応援日本一宣言」のもと、手厚い子育て支援策を実施することで子育て・若者世代を中心とした移住促進と人口増による地域の活性化を図っています。このような事業を柱に、新たに策定した計画に沿って、男女共同参画社会の実現を目指したいと考えています。

「A’GROVE」は、白神山地に源流を持つ岩木川をフィールドに、カヌー競技の拠点施設やカヌーラフティングを使った観光拠点施設として多くの方に活用されています。カヌーの村として事業を進めていきたい西目屋村として必要な団体であり、村としても支えながら一緒に盛り上げていきたいと思っています。

（取材：井藤　雪香）